

(別紙8)

【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 12月 16日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0175800309		
法人名	医療法人 やわらぎ		
事業所名	グループホーム 鶴城の郷		
所在地	北海道空知郡南幌町南18線西11番地 (電話)011-378-5601		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成21年12月26日

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自然が豊かで広々とした稲作地域の中に位置し、居室からも眺望が楽しめる2ユニットのグループホームである。ホーム内には貼り絵やカレンダーなど利用者の作った作品や季節の飾り付けが豊富にあり、楽しい雰囲気となっている。家族や医療関係者、職員などの意見を集約してきめ細かい介護計画を作成している。一人ひとりを尊重したサービスが提供されており、利用者は買い物や趣味の活動、入浴などの場面で希望に沿った生活を送っている。また、お手紙やアンケート、日々の相談を通して家族とのコミュニケーションも良好である。法人の支援体制が確立し、医療支援や職員の研修の面で充実している。管理者を中心に自己評価・外部評価を重視し、積極的にサービス向上に取り組んでいる。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の取り組みを期待したい項目である「運営推進会議」「災害対策」において改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	法人内に自己評価委員会を設置して意識を高め、ユニットごとに評価の内容を検討し運営に反映させている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、町の担当者、民生委員、町内会会長・副会長、利用者家族、利用者などが参加しており、活動報告のほか行事や外部評価、行政の情報などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	普段から話しやすい雰囲気を作り、面会時や運営推進会議にて家族の意見を収集している。また玄関に意見箱を設置したり、年末に独自のアンケートを行っている。重要事項説明書にホームの苦情担当とともに外部の苦情受付機関の連絡先を明示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に参加し、町内の文化祭など地域の活動になるべく参加している。また、焼肉パーティーなどホームの行事に地域住民を招待して交流を図っている。近所に住む利用者の友人が遊びに来たり、近くの農家が野菜を届けてくれることもある。

## 【情報提供票より】(平成 21年 12月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年 10月 1日
ユニット数	2ユニット 利用定員数計 18人
職員数	20人 常勤13人、非常勤7人、常勤換算11.4人

## (2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	1階建ての 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	光熱水費:15,000円 暖房費:7,000円(10-5月)	
敷金	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有(100,000円) 無			
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,050円	

## (4) 利用者の概要(12月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	3名	要介護2		4名	
要介護3	7名	要介護4		1名	
要介護5	4名	要支援2		0名	
年齢	平均 85.6歳	最低	67歳	最高	92歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医)みどり野医院、みどり野歯科
---------	-----------------

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームのケア理念の中に「家族や地域のふれあいを大切にします」という文言を入れ、地域密着型サービスとしての理念を確立している。また法人の理念や倫理規定も作り、その中で地域との関係作りを重視している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念は分かりやすいものに変更され見やすい場所に掲示されており、各自のネームプレートにも添付している。また職員採用時や教育指導の際にも周知徹底し、常に理念に基づいて介護にあたるよう指導している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、町内の文化祭など地域の活動になるべく参加している。また焼肉パーティーなどホームの行事に地域住民を招待して交流を図っている。近所に住む利用者の友人が遊びに来たり、近くの農家が野菜を届けてくれる事もある。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価については、法人内に自己評価委員会を設置して意識を高め、ユニットごとに評価の内容を検討し運営に反映させている。前回の取り組みを期待したい項目である「運営推進会議」「災害対策」において改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、町の担当者、民生委員、町内会会長・副会長、利用者家族、利用者などが参加しており、活動報告のほか行事や外部評価、行政の情報などをテーマに意見交換され、議事録も整備されている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の福祉センターに頻繁に出向き、そこにある地域包括支援センター、社会福祉協議会、町役場担当者と常に連絡を取り合い情報交換を行っている。ホーム管理者が「認知症サポーター講座」の講師を引き受けるなど、福祉に関する行事に協力している。		
<b>4. 理念を实践するための体制</b>					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時にアルバムを使って利用者の様子を報告したり、話し合いを持っている。また毎月「鶴城だより」を作成し、預かり金の報告や個別の手作りのお便りと一緒に送付している。お便りなどはキーパーソン以外の希望する家族にも送付している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から話しやすい雰囲気を作り、面会時や運営推進会議にて家族の意見を収集している。また玄関に意見箱を設置したり、年末に独自のアンケートを行っている。重要事項説明書にホームの苦情担当とともに外部の苦情受付機関の連絡先を明示している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホーム内の職員異動は最小限に抑え、馴染みの関係を崩さないように配慮している。2ユニットが常に交流し、担当者が交替する場合でも利用者のダメージが少なくなるように工夫している。交代がある場合は十分な引き継ぎ期間を設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回のペースで法人主催の学習会や外部学習会があり、夜勤や休み以外の職員の大半が出席している。職員は外部研修の受講の機会も与えられ、ミーティングで内容を報告している。ヘルパーや介護福祉士、介護支援専門員などの資格取得を採用時から奨励し、受験対策を行うなど法人全体で支援している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は町の福祉センターでのグループホームおよび介護事業者との集まりに出席し、情報交換を行っている。職員にも地域での「家族介護教育」や「虐待に関する勉強会」などで同業者と接する機会はあるが十分とは言えない。		今後、南幌町を含む恵庭、石狩、千歳、北広島、江別などの広域圏のグループホームで「いいケアを提供する会」というネットワークが稼働し、職員同士の勉強会や交流を活発に行って行きたい意向なので、積極的な参加を期待したい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同一法人の関連施設であるデイサービスや介護老人保健施設から移ってこられる方が圧倒的に多く、前から顔見知りである場合が多い。それ以外の場合もあるが、いずれの場合も利用開始前になるべく本人がホームを見学したり短時間利用を行っており、スムーズな利用開始ができています。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員が積極的に利用者に話を聞くようにしており、昔の言葉遣い、料理の味付け、職員が愚痴をこぼした場合の相談などいろいろな会話ができています。その他にも裁縫を教えてくれたり、職員に靴下を編んでくれる事もある。日ごろの会話でも職員にいたわりの言葉をかけてくれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント書式が統一されていない部分もあるが、利用開始時に家族などからなるべく多くの情報を収集してシートを作成し、職員で情報を共有している。日常的に思いや意向を把握するように努め、家族にも利用者の希望に関するアンケートを行なっている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用開始時は、家族や在宅時の介護支援専門員から生育歴や基本的な生活習慣について情報を得て、職員の意見を聞きながら計画作成担当者が中心となり、利用開始1週間で初期の介護計画を作成して1ヶ月後に見直しを行っている。介護計画は、現在MDS方式からセンター方式に随時移行を行っている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行っている。入院や転倒などによる身体状況の変化や排泄の変化などに応じて話し合いを行い、随時現状に即した新たな介護計画を作成している。投薬などについては1ヶ月の短期計画で介護計画を作成する事もあるので、状況に応じてその都度話し合い、随時見直しを行うようにしている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人内の事業所交流を行い、餅つきなどの行事を楽しんでいる。定期的な病院の受診は殆ど事業所で送迎を行っている。リハビリの専門員が週1回訪問し、個別のリハビリや集団体操指導などが行われている。訪問の理美容の他に個別に送迎も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に家族や本人と話し合い、かかりつけ医の専門病院は継続するなど、受診する病院を決めている。月2回の協力医療機関の往診の他に、毎日訪問看護ステーションに利用者の健康状態を連絡し、適切な医療が受けられるように常に連携を取っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所独自の、重度化した時の事前指定書類を作成して利用開始時に説明し、入院先、終末期を過ごす場所、病気の告知などについて家族や本人の意向を確認して署名を得ている。可能な限り事業所で看取りを行う方針であり、終末期や看取りに関する介護マニュアルを作成して職員研修を行っている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用開始時に「個人情報使用同意書」を作成して、情報の取り扱いに同意を得ている。個人記録などは事務所の引き出しで保管している。排泄の声かけは人前で行う事なく、少し離れた場所に誘導して言葉がけするなど利用者の誇りやプライバシーに配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や体操、掃除時間など1日の流れはあるが、利用者の状態に合わせて柔軟に対応している。職員の緊急対応などで難しい時もあるが、可能な限り買い物や趣味、入浴なども希望に沿って個別に対応し、一人ひとりのペースで日々過ごせるように支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の希望を聞きながら管理者が1ヶ月ごとに作成している。米研ぎ、野菜の皮むき、食材を切るなどの準備や後片付けを利用者に手伝ってもらっている。利用者の好みに応じて、パンとご飯、魚と肉など柔軟に変更するなどの配慮をされており、利用者と職員は会話をしながら楽しく食事をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日午後から入浴を行い、利用者の身体状況に合わせて週2回以上入浴できるように支援している。利用者に応じてお湯の温度を調節したり、石鹸やシャンプーなども好みの物を準備して、気持ち良く入浴できるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者に応じて家事分担をしたり、裁縫、書道、製作など得意な力が発揮できるように支援している。年間行事予定を立てて、季節の果物狩りや運動会、花見、紅葉狩りなどを楽しんだり、室内での輪投げ、ボーリングなどで気晴らしができるように工夫している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週3回の食材の買い出しと一緒に出かけたり近道を散歩するなど、最低週1回は全員が外出できるように支援している。買い物や外食など希望に沿った個別支援を行っている。簡易テントとポータブルトイレを準備する事で外出範囲も広がってきている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ユニット入口は施錠する事なく、玄関のみ夜間は施錠している。玄関にセンサーは設置していないが、居間を通して玄関に行く造りになっているため、利用者の出入りを確認し、外出する利用者には声かけをして一緒に出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	今年度は、消防署の協力のもと夜間の火災を想定した総合訓練を行っている。避難訓練は、法人の防火管理委員が評価を行うとともに、参加した職員は個別に反省記録を記入し、今後に役立てている。法人全体での連絡網を作成して連絡体制を確立している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は、法人の管理栄養士が定期的に栄養バランスをチェックしている。生活記録や水分チェックシートに、利用者全員の食事摂取量と水分摂取量を記録している。利用者の嚥下状態に応じて、ゼリー状にしたり、とろみをつけて摂取しやすいように配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間は台所と一体化した造りで、大きな窓と高い天井で開放感があり、ゆったりしたソファなどで居心地良く過ごせるように工夫がなされている。玄関や居間には利用者と職員が飾ったクリスマスツリーが飾られ、季節感が感じられるように配慮されている。廊下の数ヶ所に椅子やソファを配置し、利用者が落ち着いて過ごせるようにしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に設置しているストーブは利用者の好みの温度に設定している。なお一定の湿度を確保するためにバスタオルを掛けて調節を行うなど居心地良く過ごせるように配慮されている。ベッドやタンスなど使い慣れた物を持ち込み、壁に家族の写真などを飾り落ち着いて過ごせるような工夫がなされている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。